

蜿蜒二里の大列

更に三菱造船所を圍繞
川崎兵庫分工場をら訪ふ

大行列は新川橋を経て鐘紡裏を過ぎ十時二十分三菱造船所に到着。煙突の煙を収めて寂たる同造船所大廣場の所帯を穿り然りと渦巻く黄塵に労働の威力を示し燃ゆるが如き氣勢を昂げて漸次引き返し和田宮前を経て川崎兵庫分工場に向ふ。連絡委員の報知によれば尙殿りは會下山地にあると聞く。實に二里餘の長きに亘る長蛇の陣である。沿道市民も見る所帯をなぞり然れども労働者の行を盛んにしてゐる。斯て労働軍は汗と塵に眞黒になり眞に痛ましい前頭。然も序秩は整然として尙ほ空を一行列を横す。一時、兵庫分工場に着、此處でも亦喉を絞り聲をからして物凄い労働歌を唱へる。順次散會場所を分隊して、一日沿道市民にして労働者に氷水の接待をした者二百餘軒に上つた。

午後一時半

流汗裡無事解散す

兵庫分監路に餘勢を効め

灼熱し切つ眞晝の太陽は草も木も家も地上の總てを焙かすむ。只グロウリと云ふうな午前十時と云ふに空前の大示威を終へた行列は遂に其先頭を終點地なる兵庫分監路に現はれた。靜寂を破つた労働歌と太鼓の雜然たる響は今こそ彼等の自由自治の叫びである。廣場の西方よりは總指揮者久留氏を先頭に電車會用製造所の上を初めとして何ヶ會何ヶ團と林立した本自治を離して陸縦として練り進む。騎馬巡查の案内で先頭より渦巻形に旋回し、總て各團の呼笛で場の中央に集集此時久留氏は一段々各自の意義ある勞役を謝し更に此意氣を永給する様激勵。た上、直に決定し演説會に移る旨を告ぎ、本日の大示威は愈々で解散する旨を宣告した。團體各自はソングに労働歌を高声して一歩を踏み、大空に散つた、時に午後一時半

聚樂館の演説

空前の大示威行列を了りたる労働者は正午過から聚樂館に集まつて忽ち立錫の餘地無からしめた。其處には電正會主催の争議報告大演説會が開かれてゐる。前田委員司會の下に交渉委員及大阪より來授参加せる各労働組合有志者が交々立つて痛快無比の雄辯を揮つて居る青柿委員長は破れんばかりの拍手を浴つ、個人の意見としての工場管理説を主張した。辯護士高山義三氏は「獅子と馬」と題して極めて巧妙なる比喩で資本家の横暴を痛撃した。そして最後に賀川豊彦氏は満身これ感激と勇氣がこぼれ思はしめる程に熱辯を揮つて労働運動の光明に向へることを論じ斯して熾なる拍手の中この演説會は閉ぢられた。午後七時からは更に勸業館に於て労働組合聯合主催の大演説會があり久留、賀川兩氏を初め多くの労働者が雄辯を揮つた。

此大示威行列はまことに我國空前の偉觀を呈したり。東京に於ける労働祭の参加人員が尙二千を超へたることなき時、三萬に近き純職工の大行列は空前なりしのみならず、又近き將來に於て見易からざるものならん。結構の堂々たる事斯くの如かりし示威行列は、罷業團の計劃に多くの効果を齎し、労働者をして労働者の威力を覺らしめ、精神的に結束の契機となれると同時に一面に於て、其此細なる弱點の曝露は、労働者の結束力に恐愕したる官憲に口實を與へたる觀あり。則ち、労働者中の極めて若干の分子が（或は野次馬も加はりて）混雜に乗じ電車賃を支拂はざりしこと、氷店に入りて代金を支拂はざりしことは直に取りて以て「労働者の大群集に共通なる非常時に於ての掠奪」視され、警察官的憎惡の意識を挑發したるが如し。神戸の労働者が、「市民の感情」を細心に尊重したるは争議